

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	スポーツ振興課	主管課長名	仁平 博章
2-4	施策名	生涯スポーツ活動の振興	関係課	企画課、健康推進課、学校教育課、生涯学習課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	市民	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
			実績値	41,278					
			見込値						
			実績値						
			見込値						
			実績値						
目的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている。	①週1回以上スポーツを行っている市民の割合	%	目標値	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0
実績値				40.2					
②スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合		%	目標値	66.0	67.0	68.0	69.0	70.0	
			実績値	61.5					
③市のスポーツ施設利用者延べ人数		人	目標値	278,000	280,000	282,000	284,000	286,000	
			実績値	289,594					
④スポーツ少年団登録指導者数		人	目標値	197	198	199	200	201	
			実績値	169					
			目標値						
			実績値						
成果指標設定の考え方	○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来ているかは、アンケートにより、①「週1回以上スポーツを行っている市民の割合」(実施率)と、②スポーツを日常的に行っている市民の中で、「スポーツを通じて健康で明るい生活を送っていると答えた市民の割合」において把握する。								
成果指標の把握方法及算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①週1回以上スポーツを行っている市民の割合、②スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合は、市民アンケートより求める。③市のスポーツ施設利用者延べ人数は、市内体育施設及び小学校体育施設使用許可申請書より求める。④スポーツ少年団登録指導者数は、スポーツ少年団の指導者登録人数より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input type="checkbox"/> 向上した成果が多かった
	<input type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した
背景・要因	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)	
	○スポーツ実施率(週1回以上スポーツを行っている市民の割合)は、28年度40.2%、29年度40.2%と横ばいであった。運動をしている人が習慣的・継続的に運動していると思われる。また、スポーツをしている人の中で、スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民は、28年度60.9%から29年度は61.5%と0.6ポイントの微増であった。運動・スポーツが生活に定着しつつあり、満足度がわずかながら高まった。 ○年齢別の1週間に1回以上のスポーツ実施率は、60代66.9%、70歳以上68.6%と、平均値40.2%を上回っているが、20歳代5.2%、30歳代9.8%、40歳代24.1%、50歳代21.7%と、平均値を大きく下回っている。20代から50代の方は仕事・子育ての関係から実施率が低いと思われる。60代以上でスポーツ実施率が高いのは、ここ数年力を入れている「総合型地域スポーツクラブ」などの取り組みが、健康志向と相まって成果が出てきていると考えられる。 ○スポーツ施設の延べ利用者数は、28年度255,280人から29年度は289,594人に増えた。スポーツ実施率が横ばいとなっていることや、体育施設利用団体数が、28年度177団体から29年度167団体へと10団体減少していることから、施設を利用する人の利用頻度が増えたと考えられる。また、運動をする人とならない人が2極化していると思われる。 ○スポーツ少年団指導者数は、28年度188人から29年度169人へと19人減少した。少子化により、スポーツ少年団の団体数や会員登録者数の減少もその要因となっていると思われる。	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った
背景・要因	○週1回以上のスポーツ実施率の目標値42.0%に対して40.2%と1.8ポイント下回っている。 ○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活を送るについては、目標値66.0%に対して61.5%と4.5ポイント下回っている。 ○総合型地域スポーツクラブ「桜川スマイルクラブ」が平成22年10月に設立し、順調な運営を行なっている。スポーツ実施率からも60歳以上の方々には気軽にスポーツが出来る環境は整ってきているが、20代から50代までの実施率を上げるには、もっと「体育協会」と「NPO法人桜川スマイルクラブ」の連携が必要になってくると思われる。また、子育てをしながらの参加や、仕事が終わった後の参加が出来るような仕組みを考えていくことも必要になってくる。	

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
・29年度は「スポーツに取り組んでいる人」を重点対象に、「快適な施設利用の推進」を重点意図として事務事業を行った。事務事業の貢献度評価の結果から、29年度貢献した事務事業は「総合型地域スポーツクラブ支援事業」「体育協会助成事業」「スポーツ少年団育成助成事業」「スポーツ推進委員運営事業」等であった。 ・「総合型地域スポーツクラブ支援事業」では、NPO法人桜川スマイルクラブの活動支援として、11教室を実施するにあたり、体育施設の年間予約を優先的に行った。また、SAKURAフェスティバルでは専用ブースを設け、「桜川スマイルクラブ」の各教室内容やイベントの案内、並びに会員増加へ向けての加入促進活動など、後方からの支援を行なった。 ・「体育協会助成事業」は各種団体(29団体)への補助事業を始め、ふれあいウォーク桜川の実施やマラソン大会への協力、また全国大会への出場支援など広く育成強化を図った。 ・「スポーツ少年団育成事業」は35単位団体への育成を目的に、団員募集案内を行い、団員の増加と活性化を図った。また、茨城県スポーツ少年団大会への参加申し込みや認定員養成講習会への積極的な参加を促すなど、リーダーの育成に努めた。 ・「スポーツ推進委員運営事業」は、茨城県で開催された全国スポーツ推進委員研究協議会や各種研修会への参加、及び市内各種大会へ積極的に協力した。また、奇数月の第一水曜日に定例会を開催し、市内のスポーツ振興に関する協議を重ねた。	・今後は、普段スポーツに取り組んでいない人なども対象に、健康維持や生活習慣病及び介護予防も視野に入れながら、健康推進課・高齢福祉課などと連携を図り、身近で出来るウォーキングや散歩、ラジオ体操などの普及・啓発や健康体操教室の開催等を行っていく。 ・、利用者の安心・安全のため、老朽化に伴う修繕・改修を行うことにより、施設の充実を図る。